EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス（存在意義）としています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起（better question）をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および　保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくはey.com/ja_jp/people/ey-shinnihon-llc をご覧ください。

© 2024 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp

変化に対応し、一緒に未来を創っていきたい

「変化にチャレンジ、一緒に“より良い社会”を創ってみませんか」

皆さんは、ご自身の公認会計士のキャリアに関して、どのような絵を描かれていますでしょうか。

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス（存在意義）として掲げています。EY新日本は、グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献する監査法人です。また、EY新日本では、各メンバーがマイパーパスを持っています。EYのパーパスと個々人のマイパーパスの方向性を一致させて、各メンバーのWell-beingを高めるとともに、すべての活動や業務が、「より良い社会の構築」「経済社会の円滑な発展」に向かっていくような取り組みを実践しているところです。私のマイパーパスは「信頼を提供してクライアントの企業価値を創造すること」です。少し堅苦しく感じるかもしれませんが、マイパーパスは、文字通り個々人のものですので、例えば、「仕事もプライベートも楽しむ」というメンバーもいます。皆さんのマイパーパスはどのようなものでしょうか。マイパーパスとEYのパーパスを同時に実現することは本当に素晴らしいことです。

さて、このようなパーパスを掲げているEY新日本が求めている人材は、EYが掲げるパーパスへの理解があること、高い倫理観を有していること、チームの「つながり」を意識できることを前提として、専門家としての能力、環境の変化への柔軟性、プロアクティブなマインドなどの個性を有している方々です。当法人の監査業務やアドバイザリー業務は、すべてチームを組成してクライアントに提供しており、皆さんにはチームの一員としてご活躍いただきます。専門性について、ご自身が十分なレベルを持っているかと心配されるかもしれませんが、経験を積んで成長し、徐々に高めていただくことを期待しています。

ここからは環境の変化について、少しお話をさせていただきます。

最近の私たちを取り巻く環境は、経済、生活環境、規制など、とても変化に富んでいます。デジタル技術の進化、気候変動、インフレ、金利上昇、リモート環境での業務の普及、地政学リスク、企業開示の拡充などさまざまな変化があります。このような変化に対して、監査法人はどのようなことをしなければならないでしょうか。一言で言えば、社会の期待に応えるべく「変化に対応する」です。デジタル技術の進化は、“既に起こった未来”であり後戻りすることがないトレンドです。当法人では、次世代の監査・保証サービスを提供するビジネスモデルであるAssurance 4.0を推進しています。また、サステナビリティへの取り組みの重要性が急速に高まっています。サステナビリティ経営から情報開示に至るまで、拡大するニーズに応えるため一貫したサービス提供が可能な体制を整えています。私たちは、変化に対応すべく「EY新日本から変わる、変える」をスローガンに、イノベーティブな監査法人であり続けていきます。

このようなEY新日本で、マイパーパスを持ってご一緒に変化に向かいチャレンジしてみませんか。その先で、皆さんの思いがEY新日本で実現できれば、これほどうれしいことはありません。これは私のもう一つのマイパーパスです。皆さんのマイパーパスをぜひEY新日本で一緒に実現していきましょう。

小澤　裕治
常務理事　経営管理本部長

Whenever you join,

however long you stay,

the exceptional EY experience

lasts a lifetime.

EY People Career Map

キャリアマップ

本誌内に登場するメンバーが今まで経験した業務や分野をご覧ください。取り組めるフィールドは幅広く用意されています。
それぞれが興味のある分野へと活躍の場を広げる中で、以降のページでは各メンバーが直近で従事している業務の一部をご紹介します。

◎は専門・得意分野　●はこれまでに経験した業務・活動

※1 FAAS:財務会計アドバイザリーサービス　※2 Forensics:不正調査・不正対策・コンプライアンスに特化したサービス　※3 CCaSS:気候変動・サステナビリティ・サービス(2024年7月1日現在)
※4 SaT:戦略およびM&Aアドバイザリーサービス　※5 EY Ripples:EYがグローバルで取り組む社会貢献活動　※6 EYフレリモ:フレキシビリティ高くリモートワークも活用した働き方を推進する施策

本誌内掲載ページ	メンバー	事業部	職階	監査	金融	パブリック	グローバル	IPO	デジタル	FAAS※1	Forensics※2	CCaSS※3	SaT※4	地区	EY Ripples※5	EY フレリモ※6	業種、業界	その他活動
8.9	Y.Ma	第4事業部	スタッフ	◎		●				●						●	石油、空港	
10.11	M.Asano	金融事業部	スタッフ		◎											●	銀行	
12.13	A.Shimada	第3事業部	マネージャー	◎			◎		●							●	小売·外食、製造業	海外駐在、海外語学研修
14.15	R.Iwata	第5事業部	シニアマネージャー	◎		●	◎	●	◎					◎		◎	モビリティ(自動車)	
16.17	M.Noguchi	企業成長サポートセンター	パートナー	◎			◎	◎	●	●						●	テクノロジー、製造業、メディア·エンターテインメント	海外駐在、執筆、研修講師
18.19	A.Hiraoka	第2事業部	パートナー	◎			◎	●	●							●	消費財、製造業、ライフサイエンス	
20.21	S.Kato	FAAS事業部	マネージャー	◎	●		●	●		◎		●				●	建設、不動産、製造、商社	研修講師
22.23	N.Ichihara	アシュアランスイノベーション本部	パートナー	◎	◎		◎		◎							●	銀行・証券	海外駐在、執筆、外部講師
24	U.Arashida	アシュアランスイノベーション本部	シニア	◎				●	◎							●	化学、テクノロジー	デジタルリーダー育成プログラム
25	Y.Furubayashi	CCaSS事業部	マネージャー	◎			●	●				◎			●	●	消費財・小売、テクノロジー、製造業	研修講師
26	M.Morioka	EYストラテジー·アンド·コンサルティング	シニアコンサルタント	◎			●	●		●	●		◎	◎		●	モビリティ(自動車)、製造業、消費財·小売 など	研修講師、海外語学研修
27	Y.Mitsui	EY ロンドン事務所	シニアマネージャー	◎	●		◎	●	●							●	製造業、建設、ライフサイエンス	海外駐在、執筆、研修講師、海外語学研修
28.29	K.Sakaguchi	第1事業部	スタッフ	●				●								●	製造業	
28.29	S.Kojima	第1事業部	シニア	●			●		●							●	製造業、商社、テクノロジー	研修講師
28.29	T.Kawagishi	第1事業部	パートナー	◎			◎	◎	●							●	化学、製造業、宇宙、テクノロジー、ソフトウェア、商社、モビリティ(自動車)、建設	海外駐在、執筆、研修講師、グローバル人材育成、女性活躍推進
30.31	Y.Amano	大阪事務所	シニアマネージャー	◎			◎		●					◎			小売、ライフサイエンス、モビリティ(海運業·自動車)、化学	
30.31	M.Katayama	名古屋事務所	シニアマネージャー	◎		◎								◎		◎	建設、製造業、パブリック	海外語学研修

EY People Career Paths

キャリアパス

EY新日本では、主体的なキャリア設計を可能にするロードマップとして、5つのキャリアを設定しています。
キャリアに応じた役割を全うすることはもちろんですが、これからどのように成長していけるのかを常にイメージし続けることで、
自身の成長を促し、高い専門性と人間性を身に付けたプロフェッショナルとして活躍してほしいと考えています。

各キャリアに求められる役割

Staff スタッフ	Senior シニア	Manager マネージャー	Senior manager シニアマネージャー	Partner パートナー
上司の指導の下、監査実務はもちろんのこと、会計・監査に関する基本知識を習得します。カウンセラーとのコミュニケーションを通じて、キャリア目標に必要な経験を身に付け成長していきます。スタッフの上の年次では、小規模クライアントの主査となることもあります。	大規模クライアントの補助者として主査を補助するとともに、中小規模のクライアントにおいては主査として、現場を統括します。高い監査能力、知識のほかに、主査としてクライアントと良好な関係を保つことやスタッフの指導・育成も重要です。	大規模クライアントの主査として現場を統括します。大勢のシニア、スタッフの指導・育成やクライアントとの数多くの調整など、大規模クライアントならではの管理・調整能力も必要です。	複数のクライアントの監査業務全般を統括します。高度な専門的知識はもちろんのこと、高いレベルの業務管理能力、問題解決能力も必要となります。	法人の出資者であり、経営にも関与します。監査業務においては責任者として、クライアントに質の高いサービスを提供するために、高度な判断力が必要となります。

掲載メンバー

2022年入社
第4事業部 スタッフ
Y.Ma
P.08

2016年入社
アシュアランスイノベーション本部AIラボ
（第1事業部兼務）シニア
U.Arashida
P.24

2016年入社
FAAS事業部
マネージャー
S.Kato
P.20

2005年入社
第5事業部
シニアマネージャー
R.Iwata
P.14

2005年入社
企業成長サポートセンター 第2事業部
JBS アシュアランスデスクパートナー
M.Noguchi
P.16

その他掲載メンバー

M.Asano P.10

K.Sakaguchi P.28・29

S.Kojima P.28・29

M.Morioka P.26

A.Shimada P.12

Y.Furubayashi P.25

Y.Mitsui P.27

Y.Amano P.30・31

M.Katayama P.30・31

A.Hiraoka P.18

N.Ichihara P.22

T.Kawagishi P.28・29

EY People

メンバー紹介

2022年入社
第4事業部
スタッフ
Y.Ma

自分の成長が、
より良い社会の実現につながっていく

パブリックセクターの実績で群を抜くEY新日本

中学時代には産業としての農業に関心を抱き、大学の農学部では林業の研究に取り組みました。よく知られているように日本の林業は採算が取りづらいビジネスです。しかしサステナブルという側面では非常に価値の高い産業であり、業界でもESG投資に注目が集まっています。私は林業を学んだことをきっかけに非財務情報の開示に興味を持ち、公認会計士として関与したいと志しました。公認会計士ならではの専門性を発揮することで社会課題の解決に貢献できるのではないかと考えたのです。

EY新日本のパブリックセクターは豊富な実績と高い専門性を誇っています。一方で、すべての事業部においてパブリック、アドバイザリー、IPOなどを経験できる体制があります。公共機関の監査や非財務情報の保証のほか、一般事業会社の監査やアドバイザリー業務も経験したいと希望していた私にとって、多様な選択肢の中から主体的にキャリアを構築していける点は非常に魅力的で、EY新日本を選んだのは自然なことでした。

1年目から多様な経験を積んでいく

入社後は第4事業部に配属され、パブリックセクターの監査業務に従事しています。同時にエネルギーセクターの業務も兼務。一般事業会社である石油関連の上場会社と子会社の監査業務に携わっています。エネルギー関連とあってサステナブル領域には敏感な企業であり、私もやりがいを持って取り組んでいます。

パブリックセクターでの業務や非財務情報に関わりのある分野は入社前から希望していたので、担当できてうれしく感じています。パブリック領域では、監査業務を通じて私たちが指導的立場を発揮することが、一般事業会社以上に求められていることが多くあります。EY新日本ではこの領域での支援をさらに充実させるため、「パブリック・アシュアランス・センター」を設立。リーディングファームとしての基盤を一層強化させています。

私は「パブリック・アシュアランス・センター」を通して、宇宙ビジネス関連のアドバイザリー業務にも1年目から従事しています。この業務により、サービス業としてクライアントのニーズに応えていくということを、さらに強く意識するようになりました。これは監査業務においても重要な感覚だと受け止めており、バランス良く取り組むことができています。

より価値あるサポートのために

入社前、公認会計士は資料とパソコンを注視しながら仕事するというイメージでした。しかし実際は、クライアントにヒアリングし、アドバイスを送りながら進めていくという、人対人の仕事です。特にパブリックセクターの場合は、クライアントと二人三脚で、一緒に社会課題の解決に取り組んでいくという感覚があります。2年目には主査となり、担当クライアントの中で、より責任ある立場の方とコミュニケーションを取るようになりました。数字だけではつかみきれない、クライアントのリアルな事業像が把握できるようになったと感じています。

今後も公共機関と一般事業会社の監査業務、アドバイザリー業務にバランス良く携わることで、より価値の高いサポートを提供していきたいと考えています。また非財務情報開示の保証業務や海外駐在にも挑戦したいと思います。そして、こうしたキャリアを積み重ねていくことで、EYの掲げる「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」というパーパスに沿った貢献を目指したいと考えています。

CAREER

2022年
入社。
第4事業部配属。国際機関、私立学校の支援機関、一般財団法人などの監査業務に従事するとともに、石油関連の上場会社とその子会社も担当。リクルート業務やFAAS-GPSのアドバイザリー業務にも関与。

2024年
引き続きパブリックセクターと石油セクターにて、多様な業種の監査業務にコアメンバーとして携わる。空港会社の主査になる。

MESSAGE

EYで一緒に働きましょう！

第4事業部（パブリックセクター）

ライフサイエンステクノロジー（製薬・医療／精密機器など）、エネルギー（電力・ガス・石油など）、パブリック（地方自治体・学校・病院など）の3つのセクターにより構成され、多様な業種の監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。グローバルに展開する大手企業、スタートアップ企業、そして地域の重要なインフラを支える非営利組織など、規模もマーケットも多様なクライアントに対して、多様性と専門性の両方を追求し、サービスを提供しています。

Y.Ma

2022年入社
第4事業部
スタッフ

2022年入社。パブリックセクターの豊富な実績と多様な選択肢が存在する点に引かれて、EY新日本に入社。第4事業部に配属され、希望通り公共機関と一般事業会社の監査業務に携わる。休日には、大学時代に取り組んでいたグライダースポーツを楽しんでいる。

EY People

メンバー紹介

2022年入社
金融事業部
スタッフ
M.Asano

チームの先輩から学びながら、高い専門性を磨いていく

金融でトップクラスの実績

公認会計士という仕事の存在を知ったのは高校生のときでした。高い専門性を有したスペシャリストというイメージに強く憧れたものです。特にジェンダーの垣根なく活躍できる点は、長く働きたいと考えていた私の希望に合うと感じました。大学は、経済学部に進学し、本格的に公認会計士の受験勉強に取り組みました。
法人を選択するときに考えたのは、金融機関の監査に携わりたいということでした。銀行などの金融機関が保有する債券などの自己査定のサポートを通じて、公認会計士は一般事業会社を幅広く見て、経済社会全体を俯瞰（ふかん）することができます。その点でせっかく携わるならメガバンクがいいと考え、金融分野でトップクラスの実績を誇るEY新日本を志望しました。米国会計基準（US GAAP）を適用している点にも引かれました。
常勤切り替え前には2カ月間、学生非常勤として働かせてもらいました。学生でありながら週に数日、監査業務に携われたことで、一足早く社会人としての経験が積めたと思います。

しっかり向き合って教えてもらえた

入社後は希望通り金融事業部に配属され、メガバンクの監査業務を担当しました。もちろん知識も経験もほぼゼロでしたから、最初は先輩からの指示に従い目の前の業務をこなしていくだけで精いっぱい。ひたすら手を動かして監査ツールの使い方などを覚えていきました。入社直後の時期は、ちょうどチームの繁忙期にあたります。そのため先輩は多忙を極めていたのですが、私が疑問に思ったことを質問すると業務の手を止めて、しっかりと正面から向き合って丁寧に教えてくれました。
こうした経験を経て、2年目には自分の作業にはどんな意味があるのか、この調書は何のために作成しているのか、ということがずいぶんわかるようになりました。背景を理解した上で業務に取り組めるようになったことで、コアメンバーとしてチームに貢献できているという実感を得られています。調書を作成する上で資料に疑問点がある場合は、直接クライアントに連絡してコミュニケーションを取る機会も増えました。
大切なのは受け身ではなく、プロアクティブな姿勢で業務に向き合うこと。そんな気持ちで日々を過ごしています。

最高のオフィス環境でテンションも上がります

まだ2年目の若手ゆえ、メガバンクとのやりとりは緊張しますし、一つのミスもあってはならないと自分に言い聞かせています。私も"金融のEY新日本"というイメージを支える一員なのですから。これからはチームの先輩のように自立した公認会計士として、自ら判断し、行動できるようになりたいと思っています。また、シニアに昇格したら若手の育成も担当することになるので、私が指導してもらった恩返しに、真正面から向き合った育成を目指します。
EY新日本で働いていて強く感じるのは、オフィス環境の素晴らしさです。立地はもちろんのこと、室内の設備やインテリア、空間設計なども目を見張るほどで、テンションが上がります。また、オフィスはフリーアドレスになっているため、その日の業務内容に合わせて座席を選ぶことができます。こんな素晴らしい環境に恵まれているからこそ、業務にもしっかり集中できるのは間違いありません。また、育休取得前の先輩に対して、チームのメンバーがさまざまな配慮をしていたことがあり、私が出産・子育てを迎えることになっても心配いらないという安心感が得られました。

CAREER

- **2022年**
  入社。
  学生非常勤として2カ月間勤務した後、入社。金融事業部に配属され、メガバンクを中心に金融機関の監査業務に従事。併せてリクルート活動にも関与する。
- **2023年**
  引き続き金融事業部で、メガバンクを中心にコアメンバーとして監査業務に携わる。

MESSAGE

皆さんにお会いできることを楽しみにしています！

金融事業部

銀行、証券、保険、アセットマネジメントの各分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、業界において優れた実績を長く持つ総合的な金融サービスを提供。EY新日本の強みであるグローバル業務やアドバイザリー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多彩な業務経験や高い専門性を得られる領域があります。業界の卓越したサービスを提供しているEY新日本に所属する公認会計士のキャリアの可能性もますます広がっています。

M.Asano
2022年入社
金融事業部
スタッフ

2022年入社。金融関係の監査業務に携わりたいと志望し、"金融に強いEY新日本"という点に引かれて入社。希望通り金融事業部に配属され、メガバンクを中心に監査業務に携わる。リクルート活動にも従事。プライベートでは、サウナがマイブーム。休日には職場の仲間とおいしいものを食べに行ったり、遊園地に出かけたりなどしてリフレッシュしている。メンバー同士の仲の良さが自慢。

EY People

メンバー紹介

2013年入社
第3事業部
マネージャー
A.Shimada

グローバルな環境で得たプラクティスを、会計監査の進化のために

やりたいことに挑戦できる

「会計は社会を見る窓である」という教授の言葉に触発され、多様な業種の多様な企業を見たいと思って志望することにした公認会計士。生涯の武器として活用できる専門性も身に付けられると考えました。そうした背景から、法人選びに際しては組織の規模が大きく、グローバル案件も豊富に手掛けているという条件で大手法人に絞って検討しました。最終的な決断に際しては、悩んだ末EY新日本に決めました。
以来これまで、EY新日本は私の取り組みたい業務に携わるチャンスを用意し、しっかりとサポートしてくれました。入社時からグローバルな案件に携わりたいと考えていた私は、2年目には外資系ファストフード企業を担当。語学力を身に付けたいと考えたときにはフィリピン語学研修の機会を提供してもらい、さらにはEYシカゴへの赴任も実現しました。自分が望めばいくらでもチャレンジできることがEY新日本の素晴らしい点です。EY新日本の入社は直感で決めたとしか言いようがないのですが、改めて当時の決断は正しかったと振り返っています。

米国で感じた会計監査の未来

ＥYシカゴに赴任したのは、8年目のことです。世界各国からメンバーが集まった、文字通り多国籍の環境の中、日系子会社の監査業務などに携わりました。渡米前、米国人はストレートな物言いを好み、何事に対してもオープンであるというイメージを持っていました。しかし実際に一緒に働いてみると、一人一人、考え方も行動も異なるということを知りました。場の空気を読むことや、相手に忖度（そんたく）する米国人は珍しくありませんし、ダイレクトな言葉に傷つく点は日本人と変わりません。異文化コミュニケーションの中で得たこうした感覚は、日本企業のグローバル活動をサポートする上で十分に生きてくると感じています。
驚いたのは監査業務のクオリティーの高さでした。当時から既にテクノロジーを活用しデータ分析が行われており、最先端のDigital Auditの実態を見ることができました。日本での会計監査は、まだサンプリングが中心のトラッドなものが主流です。最先端のテクノロジーによるデータ分析手法を導入すれば今まで以上の深掘りが可能になり、監査のクオリティーは高まっていくことでしょう。EYシカゴ赴任途中にマネージャーに昇格し、現地で得た私の知見や経験を、こうした進化のために還元したいと考えながら帰国しました。

「人間だからできること」を追究したい

今私が考えているのは、AI時代だからこそ公認会計士のスキルが重要になってくるということです。単純な手作業はテクノロジーに委ね、私たち人間は会計基準の適用など、より高度な判断力が求められる領域を担当しなくてはなりません。そのためには過去の経験に満足せず、常に学び続けることで自分をアップデートしていかなくてはならないと考えています。同じ企業を監査していても毎年論点は変わっていきますし、見えてくる景色も違います。私は入社2年目から外資系ファストフードの会社を担当しているのですが、食べることが好きなのでこのクライアントのお店にもよく立ち寄って食事をしています。その際に一消費者として感じる企業の魅力や課題なども、人間だから得られる情報といえます。
こうしたことを考えると会計監査の仕事は奥が深く、もっと楽しく、もっとやりがいを持って取り組めると考えています。この先、公認会計士としてのさらなる成長が楽しみです。

CAREER

2013年
入社。
学生非常勤からキャリアスタート。入社当時からグローバルな領域での活躍を志望。商社子会社や不動産ファンドなどの監査業務に携わる。

2016年
シニア昇格。
2年目から現在まで担当している外資系ファストフード企業の主査になる。

2019年
フィリピン語学研修などで英語の学習を続け、当初の目標であった海外赴任が実現。当時の海外派遣プログラムでEYシカゴへ赴任。

2020年
EYシカゴでマネージャー昇格。

2021年
海外赴任前に担当していたクライアントの監査チームにマネージャーとして帰任。EYシカゴの経験をチームに還元する。小売業のリファーラルのエンゲージメントも担当。

2022年
製造業のクライアントに、海外担当として関与する。

MESSAGE

EYで一緒に
挑戦していきましょう！

第3事業部

小売業、外食業、製造業などの企業を幅広くカバーしています。生活に身近なビジネス、商材を扱う企業の多いことが特徴で、棚卸立会など、公認会計士としての基礎的な業務を学ぶ上でも適しているといえます。大企業だけでなく、中小・中堅企業、IPOが多いことも特徴です。

A.Shimada
2013年入社
第3事業部
マネージャー

2013年入社。専門性を身に付けたいと公認会計士を志す。EY新日本入社後は外資系ファストフード企業や商社子会社、不動産ファンドなど、幅広く監査業務を担当。その後、入社8年目にEYシカゴに赴任。現地でマネージャー昇格も果たす。帰国後、海外経験を生かして製造業のクライアントの海外担当としても関与。週末は習い事をしている娘の送迎、付き添いなどに過ごす。

EY People

メンバー紹介

2005年入社
第5事業部
シニアマネージャー
R.Iwata

ライフステージに合わせ、しなやかに自分らしいワークスタイルを

退職後の復帰もスムーズ

夫の転勤に伴って地方の事務所への異動を希望したときも、復職したいけれど子どもがいるのでフルタイムで働くのは難しいと相談したときも、EY新日本は私の気持ちを受け入れて、私にとって最も良い結論を提案してくれました。働く仲間のことを大切にしてくれる、本当に素晴らしい組織だと感じています。

仙台事務所に異動したのは入社5年目。他業界で働く夫が転勤することになり、繁忙期が終わったら私も仙台に異動させてもらえないかと上司に相談したところ、翌月に異動できるように上司が調整してくれました。その後、夫の海外赴任に伴い退職した後、再入社した際は、二人の子どもがいるため、当時の制度に基づいて週4日かつ短時間勤務の契約社員を選びました。一度は退職したのにもかかわらず、受け入れてもらえるだろうかと不安だったのですが、部署全体で迎え入れてくれました。しかも復職初日、チームミーティングで盛り上がっている最中には「そろそろ退社時間では」と、時短勤務の私にメンバーが声を掛けてくれました。細やかな心遣いに、とても温かい職場だと感じました。

デジタルで激変した仕事環境

大手監査クライアントが多いことに引かれて入社したEY新日本。入社1年目から大手自動車メーカーの会計監査を担当し、現在も自動車業界の大手部品メーカーを担当しています。この間の環境の変化は大きく、特にデジタルツールは監査の業務を劇的に変えました。以前ならば会計上のリスクを発見するのは簡単ではなかったのですが、デジタルツールのおかげで全体を俯瞰（ふかん）しながらより早くリスクを見つけられるようになり、それが監査の品質を大きく上げてくれたと感じます。

またEYグローバルで進められているテクノロジーを活用したデータ分析（データドリブン監査）と監査メソドロジーとが融合した監査手法（D-GAM）の運用は、EY新日本でも既に開始しております。これは、私たちがEYグローバルの一員であることを以前よりも強く意識させられることにもつながっています。

海外駐在に挑戦したい

今最もホットなワードは、サステナビリティです。上場企業に非財務情報の開示が義務付けられるなど、私たち公認会計士にもサステナビリティ関連の専門知識が求められるようになりました。私自身も外部の研修などを通じて学んでいかなくてはならないと感じていますが、今後はこの分野で強みを持つ人材がEY新日本のドアをノックして入社されるケースが増えるのではないでしょうか。EY新日本ならではの多様性に、さらに拍車がかかりそうです。

こうした変化には、EY新日本のパーパスである「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」が導入されたことも背景の一つとして挙げられるでしょう。初めて耳にしたときは、なんて壮大なパーパスだろうと驚いたものでした。一人一人が自分のパーパスを大切にすることで、EY全体としてのパーパスの実現につながっていくという思いは、仕事のモチベーションに反映されています。

私が一度EY新日本を退職したのは、夫の海外赴任に帯同するためでした。そのときの経験を生かし、今度は私自身が海外駐在に挑戦したいと考えています。国内企業の監査業務でも、海外とコミュニケーションする機会が大幅に増えました。この希望もかなうよう、もっと精進したいと思っています。

CAREER

- **2005年**
  入社。
  大手自動車メーカーの会計監査を担当。先輩の指示に従い、真摯（しんし）に取り組む。
- **2008年**
  シニア昇格。
  引き続き大手自動車メーカーの会計監査を担当。
- **2010年**
  夫の転勤に伴い、仙台事務所に異動。幅広い業種の監査を担当。
- **2012年**
  夫の海外赴任が決まり、1歳の息子とともに帯同するため退職。その後、二人目の子どもが誕生。
- **2017年**
  帰国後、子どもの保育園が決まってから、契約社員としてEY新日本に再入社。
- **2019年**
  正社員に転換、マネージャー昇格。主に自動車業界のクライアントの監査を担当。
- **2023年**
  シニアマネージャー昇格

R.Iwata

2005年入社
第5事業部
シニアマネージャー

2005年に入社し、大手自動車メーカーの会計監査を担当する。夫の転勤に伴う仙台事務所への異動を経験した後、夫の海外赴任に伴って退職。帰国後、生活が落ち着いた頃にEY新日本に契約社員として再入社。その後正社員に転換し、マネージャーに昇格。現在も主に自動車業界のクライアントを担当。育ち盛りの男の子が二人いて、週末は買い物や食事などで家族との時間を楽しんでいる。

MESSAGE

EYで
会いましょう!!

第5事業部

主に自動車業界と不動産関連のクライアントを中心に監査を担当しているのが第5事業部です。部内ではセクター（業種）別にチームが編成され、業界特有の専門的な知見、最新の情報に基づいたサービスを提供しています。同時に業界ごとのナレッジ活動を通じて知見と経験を共有することで、業界に特有の会計・内部統制上の課題に対応しています。

EY People

メンバー紹介

2005年入社
企業成長サポートセンター
第2事業部
JBS アシュアランスデスク
パートナー
M.Noguchi

IPO 支援を通じて、より良い社会の実現に貢献する企業を世界へ送り出す

EY新日本ならではの圧倒的な実績

EY新日本に入社以来、スタートアップ企業のIPO支援業務に軸足を置いてキャリアを重ねてきました。年に数社のIPO達成を支援させていただいており、IPOを果たした経営者が別の企業に移って再びIPOに挑む際にお声をかけてくださることもあります。EY新日本は、2012年に「企業成長サポートセンター」を設置するなど、特にここ10年ほどIPO支援に力を入れており、ストックベースで常に300社前後のIPO支援案件を有し、IPO達成企業の監査実績は2018年から2022年まで5年連続トップです。この実績は他法人と比較しても圧倒的なものと自負しています。

IPO準備は数年単位のプロジェクトであるため、ぶれることなく一貫した支援姿勢を持つ監査法人と監査チームのサポートを受けることが重要です。この点、EY新日本は長期間にわたって安定的なIPO支援実績を有し、上場を果たすまでしっかり支援をする体制を整えています。こうした点が「IPOの相談ならEY新日本に」という評価に結びついているのでしょう。

公認会計士にとってIPO支援業務は、前例にとらわれずに自身の知識と経験をもとに高い裁量を持って進めていける点が魅力です。上場会社は過去に諸先輩方が築き上げてきた会計方針や内部統制がありますが、上場前の企業はそもそも会計監査を受けたことがなくそうしたルールがないケースも多く見られます。既存の会計方針や内部統制がない中で、創業者と二人三脚で上場に向けて試行錯誤し、道を開いていく醍醐味（だいごみ）は、この仕事ならではのやりがいとなっています。

世界と闘うスピード感を学ぶ

前例に縛られずに取り組む余地が大きいことが魅力ではありますが、それは正解のない道を進んでいくということですので、絶対的なスピード感覚が求められます。国際的なアントレプレナー表彰制度である「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」の世界大会に参加して世界のスタートアップを目の当たりにしたことで私はその思いを強くし、スピード感覚を身に付けるには自らが海外に出て行くことが必要だと考え、EY香港に駐在することにしました。

香港は狭いエリアですが、世界中のビジネスパーソンが集まった濃い場所です。その中でEYの他のサービスラインの専門家と共にクライアントの課題解決に取り組んだことで、経営者の伴走者として求められるスピード感や知見などについて、身をもって知ることができました。同時に、世界で闘うスタートアップを日本から送り出したいという思いも強くなりました。EY香港に駐在した3年間で私の意識は大きく変わったと感じています。

なお私はEY香港ではジャパン・ビジネス・サービス（JBS）という組織に所属して活動していました。JBSは日本企業が海外に進出し成長するためのサポートを行うグローバルネットワークであり、この組織の存在も「EY新日本は成長戦略の一つとして海外展開の支援もしてくれる」という評価に結び付いています。

IPOはゴールではなく通過点

IPO支援業務は上場を果たした際の達成感も大きく、EY新日本内でも希望者の多い業務となっています。圧倒的な案件数を誇ることから、入社1年目からでも携われる点も魅力の一つでしょう。私自身は「この会社の技術・サービスによって社会が良くなった」と誰もが感じられるような企業を一社でも多く資本市場に送り出したいと考えています。

ただしIPOは決してゴールではありません。社会に対して永続的に価値を提供できる企業であり続けることが重要で、会計監査などを通じて上場後もそうした支援を続けていくこともEY新日本の使命です。上場会社となるための準備状況に疑問を感じたら、あえてIPOにストップをかける判断をすることさえありえます。それができるのもEY新日本が、社会にとって真に価値あるIPOにこだわり続けているからです。

MESSAGE

より良い未来を
一緒に創ろう!

企業成長サポートセンター

EY新日本に蓄積されたIPO支援のナレッジを活用し、IPO関連イベントやセミナーなどを開催して、多くの成長企業に情報提供を行います。上場希望の企業に対してはナレッジやノウハウ、人脈などの総合力を駆使してIPO支援を行うとともに、上場後の監査も担当します。

CAREER

2005年
入社。
公開業務本部（当時）に配属され、スタートアップ企業のショートレビュー業務およびIPO準備監査業務に従事。また、財務デューデリジェンス業務などの組織再編に関連する業務も多数経験。

2008年
シニア昇格。
IPO準備監査業務の主査としてIPO達成までのプロジェクト管理を経験するとともに、IPOを目指すスタートアップ企業の発掘や監査契約獲得に向けた新規事業開発活動も担当。

2012年
マネージャー昇格。
EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー（以下、EOY）日本大会の担当マネージャーとして、モナコで開催されたEOY世界大会への参加を経験。

2014年
EY香港へ出向。
グローバル展開する日系企業の新規進出や現地法人への会計・税務を中心としたサポート業務、国際財務報告基準（IFRS）に基づく監査業務に従事。日本へのIPOを目指す現地企業の発掘にも成功。駐在中にシニアマネージャー昇格。

2017年
EY新日本に帰任。
グローバル企業の監査業務の統括主査を担当するとともに、数多くのIPOを目指すスタートアップ企業を担当。

2021年
パートナー昇格。
テクノロジーセクターを所管する第2事業部、IPOを所管する企業成長サポートセンター、JBS業務を所管するJBSアシュアランスデスクを兼務し、世界で勝負するメガスタートアップを数多く輩出すべく活動している。

M.Noguchi

2005年入社
企業成長サポートセンター
第2事業部JBS アシュアランスデスク

大手金融機関で証券アナリストを3年半経験した後、2005年EY新日本に入社。以来、スタートアップ企業の成長をサポートする業務にやりがいを感じ、主にIPO準備業務を中心にキャリアを重ねる。9年目にはEY香港に駐在。その後、パートナーに昇格し、世界で勝負するスタートアップを日本から送り出すことを目標に業務に取り組んでいる。週末は小学生対象のサッカーコーチで汗を流す。

EY People

メンバー紹介

2007年入社
第2事業部
パートナー
A.Hiraoka

キャリアアップとともに視座は高くなり、可能性も広がっていく

子育てしながらパートナーに

私にとって大きなターニングポイントとなったのは、入社14年目に長女を出産したことと、翌年にパートナーに昇格したことでした。産前·産後休業の取得直前、上司から「パートナーを目指してみないか」と打診された際は、これから出産·子育てを控えている私にはとても無理と思いましたが、休業中に自分のキャリアについて振り返る時間を持てたことで、せっかくのチャンスをもらったのだから挑戦してみたいと考えるようになりました。既にパートナーを目指す女性のための「LEAP研修」を受けて、他のサービスラインの女性メンバーから刺激を受けていたことも、私の背中を押してくれました。

EY新日本には子育てしながら働く女性が多いことから、復職に際しては何の心配や不安もありませんでした。母親として私の先輩になるメンバーも多く、子育てについてのちょっとした相談事なども気軽にできました。制度面でありがたかったのは「育児コンシェルジュ」です。特に保育園探しでは大いに助けられました。

ロールモデルとしての覚悟

復職してすぐにパートナーに昇格し、現在は大手消費財メーカーを中心に担当しています。マネージャー、シニアマネージャー時代よりも責任が重くなったのは当然のことで、自分のチームのメンバーをどう育てていくか、クライアントとどう向き合うべきか、自分ならではのパートナー像を築くべく、取り組んでいるところです。実はマネージャー昇格を前にした頃、監査業務はもうやり切ったという思いから、自分が踊り場にいるような感覚になりました。当時の上司にそんな話をしたところ、ポジションが上がれば別の景色が見えてきて、実はまだ何もやり切っていないと気付くはずだというアドバイスをいただきました。その言葉通り、昇格するたびに仕事の幅が広がり、自分の視座は高くなっていくのを実感します。

後輩の中には昇格することをためらったり、現状に閉塞(へいそく)感を抱いたりするメンバーも多いことでしょう。けれど思い切って一歩を踏み出すことで新しく得られるものは必ずあります。その意味でも私自身がロールモデルとなって、後輩のために背中を見せていきたいという思いを強くしています。

成長することで信頼に応える

ここ数年、EY新日本は大きく変わりました。特にデジタルツールの発達は目覚ましく、データの解析はツールに任せ、私たちは解析結果の判断やクライアントとのコミュニケーションに、より力を入れるようになってきたと感じています。ガバナンスが企業の重要課題となった今、不正やセキュリティ上のリスクに対してクライアントは神経をとがらせています。その予兆を見つけ出す上でテクノロジーの活用は不可欠ですから、クライアントも私たちがどのようにデータを解析して活用しているのか、非常に高い関心を示しています。今後はリアルタイム監査の実現へと時代は進んでいくことになるので、私たちもテクノロジーに対する知見を磨き、クライアントの期待に応えていかなくてはなりません。

さらに私の担当する消費財メーカーはサステナビリティ活動に対して積極的な取り組みを行っており、私たちも非財務情報の開示について今まで以上に踏み込んでいくことが求められています。挑戦すべきことは多く、さらに成長を続けていきたいと考えています。

CAREER

- **2007年**
  入社。
  学生非常勤として監査第8部(当時)に配属され、4月に常勤となる。製造業や化学メーカー、ハウスメーカーなどの監査業務に従事。
- **2010年**
  シニア昇格。
  中規模の上場企業などの主査を担当するとともに、IPO業務やリファーラル業務にも従事。非監査業務や執筆活動などにも携わる。
- **2014年**
  マネージャー昇格。
  監査業務に加え、事業部の品質管理活動やリクルーターとして採用活動に参加。法人代表として社外の「J-Win研修」に参加し、経験を積む。
- **2018年**
  シニアマネージャー昇格。
  大規模消費財企業の統括主査を担当するほか、AQR部を兼務。「LEAP研修」にも参加。
- **2021年**
  長女を出産し、1年間の産休·育休を取得。
- **2022年**
  パートナー昇格。

A.Hiraoka

2007年入社
第2事業部
パートナー

アットホームで誠実な社風が自分に合っていると感じて、2007年入社。製造業や化学メーカー、ハウスメーカーなどの監査業務に従事。品質管理活動やリクルーター活動、さらには外部研修などで経験の幅を広げる。2021年に出産し、2022年に復職。直後にパートナーに昇格する。週末は娘と公園を巡るのが楽しみ。

MESSAGE

EYで自分らしいキャリアアップを☺

第2事業部

メディア系やエンターテインメント系、テクノロジーセクター、消費財など幅広い企業に監査およびアドバイザリーサービスを提供。その中で消費財セクターは食品メーカーなどのクライアントを担当しています。身近な製品であるためにビジネスモデルを理解しやすく、監査の基礎を学ぶのに適したセクターとされています。

EY People

メンバー紹介

2016年入社
FAAS事業部
マネージャー
S.Kato

自らの意志と行動で、キャリアの道を開いていく

クライアントに寄り添いながら

私の所属するFAAS事業部では、クライアントの経理・財務部門への多様なサポートを行っています。クライアントは金融以外の幅広い業種にわたり、比較的中規模の企業が中心です。具体的な業務としては新しい会計基準の導入支援や決算業務の効率化に向けた会計システムの導入など幅広く、クライアントによって異なります。会計監査は年間を通じて取り組む業務が決まっているのに対し、FAAS事業部での業務はクライアントごとにカスタマイズされたサービスを提供していることになります。そのため、よく「FAAS事業部では何をしているのですか」と問われても、一言では説明しづらいというのが私の実感です。会計監査は売上などの過去の数字を見る仕事であるのに対し、FAAS事業部ではクライアントと一緒にこれから数字をつくっていくための準備を進めます。入社して数年間会計監査に携わっていた経験から、こうした立場の違いは強く実感しており、それがやりがいにつながっています。

キャリアチェンジを支援する風土

私が会計監査からアドバイザリーへのキャリアチェンジを意識するようになったのは、入社4年目にシニアに昇格し、Fintech企業へのIPO支援に携わったことがきっかけでした。それまで私は大手証券会社を担当していたのですが、Fintech企業は規模も小さく、企業としての体制づくりも十分ではなかったので、上場準備を通じてさまざまな整備を支援しました。自分の携わったことがクライアントの成長にダイレクトにつながるという手応えは心地良く、本格的にアドバイザリー業務に携わってみたいと思うようになりました。EY新日本の魅力の一つが、部門の違いを超えて異動するモビリティを積極的に推奨する文化です。ただ、黙っていてもモビリティのチャンスは得られません。私も次の目標が見つかったという思いで、異動に向けて自ら動き始めました。具体的にはアドバイザリー業務に携わっている幅広い階層の先輩社員を人づてに紹介してもらい、仕事のやりがいなどについて聞かせていただいたのです。中にはパートナーもいらっしゃったのですが、多忙な中でも快く時間を取って私の相談に乗ってくれました。EY新日本では、パートナーは決して雲の上の存在ではないのです。このように自ら手を挙げてチャレンジしようとする姿勢があれば、部署や職階の違いを超えて背中を押してくれるのがEY新日本の仲間たちです。こうした取り組みを経て私は、入社5年目にFAAS事業部に異動し、アドバイザリーとしての新たな一歩を踏み出すことになりました。もちろんFintech企業へのIPO支援の経験からIPOの専門家を目指したいと思ったなら企業成長サポートセンターへの異動もあり得ましたし、そのまま金融事業部で公認会計士としてのスキルをさらに磨いていくこともできたでしょう。キャリアの選択肢が豊富で、しかも自らの意志で決定していけることは、EY新日本の素晴らしい点です。

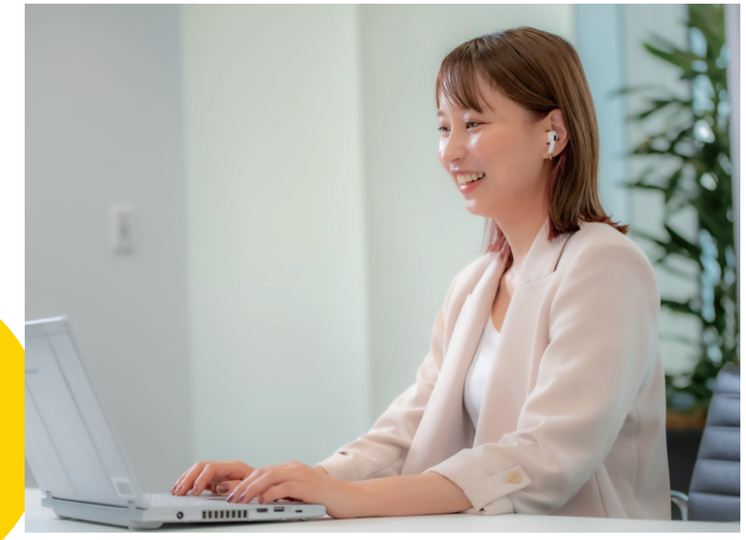
管理職としてのチャレンジ

入社8年目にマネージャーに昇格しました。個人的にはまだ早いのではと感じたものの、チャレンジする姿を後輩たちに見せることでいい影響を与えられたらという思いもあって、踏み切りました。管理職となったことで視野が広がって組織全体を見るようになり、また、スタッフのマネジメントをすることで育成への意識が高まるなど、自分なりの成長を実感しています。FAAS事業部には、事業部の課題を話し合ってパートナーに提言するShadow Boardという取り組みがあり、私もそのメンバーとして参画。既にいくつかの提言を通じて業務環境の変革に関わりました。Shadow Boardでは若手、中堅の違いを意識することなく自由に議論を交わしており、こうしたオープンな場があることは素晴らしいと感じています。今後は管理職として力を磨き、より魅力ある環境づくりを通じてチームや職場に貢献していきます。また、海外案件に関わる機会が増えてきたので、将来的には海外駐在にもチャレンジしたいと考えています。この先も自分らしいキャリアを切り開き、挑戦を楽しみたいです。

CAREER

- **2016年**
  入社。
  金融事業部に配属となり、主に大手証券会社の会計監査に従事。
- **2019年**
  シニア昇格。
  Fintech企業へのIPO支援などにも携わるようになり、アドバイザリー業務に興味を持つ。
- **2020年**
  FAAS事業部に異動。
  決算支援やIFRSなどの新基準導入支援に従事。
- **2023年**
  マネージャー昇格。
  管理職として部下のマネジメントを担うようになる。同時に、事業部の課題を話し合ってパートナーに提言する組織であるShadow Boardにも参加。より広い視野を持つようになる。

MESSAGE
あなたらしいキャリアをEYで!



FAAS事業部

FAAS事業部（Financial Accounting Advisory Services：財務会計アドバイザリーサービス）は、クライアントのCFOや経理・財務部門のパートナーとして成長戦略をサポートしています。新会計基準の導入支援、決算プロセス変革支援、管理会計の高度化支援、会計DX支援など、幅広いサービスを提供し、課題解決に貢献しています。

S.Kato

2016年入社
FAAS事業部
マネージャー

専門性を身に付けて、女性として長く働きたいと考え、公認会計士に。入社後、金融事業部で主に大手証券会社の会計監査に従事。4年目にシニア昇格。5年目に自ら望んでFAAS事業部に異動。幅広い業種の企業の決算支援やIFRSなどの新基準導入支援に携わる。8年目にマネージャーに昇格し、現在に至る。

EY People

メンバー紹介

2003年入社
アシュアランスイノベーション本部
パートナー
N.Ichihara

イノベーションの先陣を切る

世界に先駆けた対応と実績

テクノロジーの急激な進化が、社会やビジネスのあり方を一変させています。会計監査も同様です。EY新日本ではデジタル時代の監査のモデルを「アシュアランス（監査）4.0」として位置付け、長年受け継がれてきた伝統的な監査の世界から、次代の監査を目指すイノベーションに取り組んでいます。この取り組みを担うのが理事長直轄の組織であるアシュアランスイノベーション本部です。その中で私は、AIを活用した監査ツールのプロダクト開発を行うAIラボで副部長を務めています。デジタル時代の新しい監査のあり方については大手ファームを中心に多くの監査法人が意欲的に取り組んでいます。それらと比較したEY新日本の強みは、群を抜く先進性にあるといえるでしょう。2016年には機械学習のアルゴリズムを用いた独自の不正会計予測モデルを構築し運用を開始しました。これは世界レベルでもトップクラスの早さでの取り組みでした。2017年には仕訳の異常検知の運用を開始し、今では多くの監査現場で利用が進んでいます。また仕訳の異常検知のアルゴリズムは特許も取得しました。こうした先駆的な取り組みは研究やパイロットの段階ではなく大規模な利用に耐えられるシステムとして運用されているのもEY新日本ならではの特徴です。

根底にあるのは普遍の使命感

投資家にとっては会計不正のない正しい世界が当たり前です。しかし現実には不正が絶えることはありません。不正そのものも進化しており、膨大なデータの中に隠された不正の糸口を人間の力だけで見つけ出すようなことは困難になってきました。デジタル時代においても私たち監査法人が「市場の番人」としての使命を果たす上でAIをはじめとするテクノロジーの活用はより一層重要なものになっていくと考えています。EY新日本では「Building a better working world（より良い社会の構築を目指して）」というパーパス（存在意義）を掲げており、「アシュアランス4.0」はその実現に寄与するものです。少しでも不正の検知に役立つような監査ツールの開発を通じた貢献は、公認会計士である私にとって大きなやりがいとなっています。またEY新日本のさまざまな監査チームのニーズを拾い上げ、テクノロジーで解決していくプロセスそのものも醍醐味です。

よりエキサイティングな領域へ

グローバル化が進む時代に英語力が必須と言われたように、これからのデジタル監査の時代においてテクノロジーのスキルや統計・数学のリテラシーは必須となるかもしれません。入手できる情報がますますリッチになっていく中、情報を十分に活用するためにはこういったスキルやリテラシーによりデータを見る解像度を劇的に上げる必要があるからです。膨大なデータを自在に分析・活用し、より深く監査を行うような未来では、公認会計士がかつてないほどエキサイティングな職業になっているでしょう。皆さんにはこうした未知の世界に足を踏み入れることを恐れず、むしろ未踏の領域を切り開いていくことを楽しんでいただきたいと思います。これから公認会計士としてスタートを切る皆さんにとって、この上なく大きな成長を手にできる環境がここにあります。

CAREER

- 2003年
  入社。
  国際部（当時）に配属。グローバル金融機関の監査に従事し、金融工学を学ぶ。
- 2007年
  シニア昇格。
- 2009年
  マネージャー昇格。
  EYのニューヨーク事務所デリバティブ・バリュエーション・センターに赴任。米国の金融機関向けリスク管理アドバイザリー業務に従事。
- 2011年
  帰国し、金融事業部に所属。金融機関向けに、デリバティブ評価モデルやリスク管理のアドバイザリー業務、監査に従事。
- 2014年
  シニアマネージャー昇格。
  大学院で数量ファイナンスや会計学、計量経済学、機械学習などを学ぶ。
- 2016年
  修士課程修了。品質管理本部不正リスク対策部に異動。不正会計予測に機械学習のアルゴリズムを用いたEY新日本の独自モデルを構築する。
- 2018年
  パートナー昇格。
- 2020年
  アシュアランスイノベーション本部の立ち上げに携わる。

MESSAGE

プロフェッショナルとしてのキャリアは是非EYで！

アシュアランスイノベーション本部

「アシュアランス4.0」を見据えて2020年に発足。企画部門のイノベーション戦略部、監査部門を組織的に支援するCoE推進部、AIを活用した監査ツールやプロダクト開発を行うAIラボ、監査ツールの導入・展開を行うアシュアランステクノロジー部で構成されています。

N.Ichihara

2003年入社
アシュアランスイノベーション本部
パートナー

理系出身としての強みを生かし、デリバティブ評価とリスク管理に焦点を当てた監査・保証業務のクオンツ（数理分析の専門家）として経験を重ねる。12年目には大学院で経済学修士号を取得。早くからデジタル会計時代を見据えた独自モデル、アルゴリズムの開発に取り組む。休日は家族との時間を大切にし、二人の子どもと遊ぶ時間を楽しんでいる。

EY People

メンバー紹介

2016年入社
アシュアランスイノベーション本部
AIラボ（第1事業部兼務）
シニア

U.Arashida

MESSAGE

新たな一歩を
共に踏み出そう！

CAREER

- 2016年
  入社。
  大学3年生の時に学生非常勤として入社し、第1事業部に配属される。製造業やソフトウェア業などの企業の会計監査のほか、IPO業務にも携わる。
- 2020年
  シニア昇格。
  テクノロジーを利用した新しい監査手法に触れる中、デジタルを利用した監査に強い関心を持つようになる。
- 2021年
  AIラボに異動。
  主に売上取引異常検知ツールの企画開発などを担当。
- 2023年
  第1事業部兼務となり、AIラボで監査ツールの開発業務に携わりつつ、中規模上場会社の会計監査も主査として担当。

監査とテクノロジーの架け橋として

公認会計士がツール開発に携わる意義

AIを活用した監査ツールの開発などを行っているAIラボで私が担当したのは、売上取引異常検知ツール「SLAD」の開発です。不正リスクの高い取引を検知するツールが「SLAD」ですが、開発側のデータサイエンティストなどはその判断精度を上げることに注力しがちなのに対し、ユーザー側の公認会計士はシロやクロの判断の背景を知りたい傾向にあります。こうした考え方の違いが生み出すギャップを埋めることが、公認会計士の経験を持つ私の役割です。「SLAD」リリース後はユーザーに意見を聞き、開発側にフィードバックしてアップデートを繰り返しましたが、うまくユーザーの意見を取り入れたツールに仕上げることができました。私ならではのバックグラウンドを生かして開発したツールを実際に監査チームが使ってくれているのは大変うれしく、監査品質の向上に貢献できていると自負しています。

監査と開発に軸足を置く

文系出身の公認会計士として入社した私が今はAIを活用したツールの開発に携わっているのですから、まさに想定外の未来が待っていたという思いです。会計監査に携わる中で新しい監査手法に興味を抱き、自ら希望してAIラボに異動したことでかなえられた未来像でした。当時所属していた第1事業部の仲間も私の異動を応援し、快く送り出してくれました。現在はその第1事業部に復帰し、AIラボとの兼務で会計監査にも携わっています。これも会計監査の課題を自らの実体験として感じることを、より現状に即したツール開発のためにフィードバックしたいという思いからです。監査と開発の両方に軸足を置いている、とてもバランスの良い状態だと感じています。会計監査のDXでEY新日本は、常に先駆的な取り組みで卓越したサービスを提供してきました。今後の変革に向けて、私もさらなる貢献をしたいと考えています。

AIラボ

AI監査ツールをはじめ次代の監査·保証サービス「アシュアランス（監査）4.0」の実現を目指して発足したのがアシュアランスイノベーション本部です。その中でAIラボは、リアルタイム監査の仕組みづくりを視野に、AIを活用した監査ツールなどの開発を担っています。「EY Helix GLAD」に搭載された会計仕訳の異常検知技術は特許を取得しました。

U.Arashida

2016年入社
アシュアランスイノベーション本部
AIラボ（第1事業部兼務）
シニア

業界内でいち早く変革に取り組んでいる姿勢に共感し、EY新日本に入社。大学3年の冬より学生非常勤として週に2日程度勤務し、経験を積む。入社後は第1事業部で製造業などの会計監査を担当。4年目に自ら希望してAIラボに異動し、監査ツールの開発に取り組む。6年目より第1事業部兼務。

EY People

2017年入社
CCaSS事業部
マネージャー

Y.Furubayashi

MESSAGE

EYで自分だけの
キャリアを築こう!!

CAREER

- 2017年
  入社。
  第3事業部にて、製造業の中小企業の監査チームに配属される。1年目よりさまざまな業務に従事。
- 2019年
  英語を使う業務を希望し、大手半導体メーカーの監査チームに異動。その後、外食チェーンやIT企業の監査チームへ。会社法監査の主査も経験する。
- 2020年
  シニア昇格。
  大手工作機械メーカーの監査チームに異動。かねてアドバイザリー業務に興味があり、モビリティ制度を利用して異動を申し出る。
- 2021年
  CCaSS事業部に異動。TCFDを含む非財務情報の開示支援や、人権デューデリジェンスのアドバイザリー業務に従事する。
- 2024年
  マネージャー昇格

アドバイザリーへのキャリアチェンジ

非財務分野でクライアントを支援

私が所属するCCaSS（気候変動·サステナビリティ·サービス）は、主に企業の気候変動をめぐるリスクや機会への対応、さらにはサステナビリティと経営戦略の統合をサポートしています。その中で私は、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）開示支援業務や非財務情報の保証業務、人権デューデリジェンスのアドバイザリー業務などに従事しています。異動してからは、会計や監査の知識をほぼ使用しなくなったものの、監査時代に培ったスキルは大いに役立っていると実感します。監査調書の作成を通じて得た文章を作成する力や、監査での質問や資料依頼の講評などの経験で得たクライアントとのコミュニケーションスキル、分からない事象にあたったときに自分で調べ、さらに周りを巻き込んで解決する力などは、今の業務でも欠かせないスキルになっています。

自らの意志で道を開く

入社以来会計監査に携わり、公認会計士としての基礎を固める一方で、アドバイザリー業務にも興味を抱くようになりました。転職も一つの手段ではありましたが、EYの自由で開かれた組織風土が自分にとても合っていると感じていたため社内でいろいろと模索していたところ、ESG（環境・社会・ガバナンス）に関するアドバイザリーサービスを展開するCCaSSの存在を知りました。興味が湧いたもののこれまでとまったく異なる分野であったため、カウンセラーやグループ長に相談したところ、自分にとってプラスになるキャリアとなるから、挑戦すればよいと背中を押していただけました。そのような心強い後押しもあり、モビリティ制度を利用して、CCaSSに異動することができました。こうしたキャリアチェンジができるのはEY新日本の大きな魅力と言えるでしょう。EY新日本は世界有数のアカウンティングファームとして知られているだけでなく、ESGコンサルティング分野においても優れた実績を持っていると評価されています。私もその一員であることを自覚し、将来的には財務、非財務どちらにも通じたジェネラリストとしての道を歩んでいきたいと考えています。

CCaSS事業部

CCaSS事業部では、ESG／サステナビリティの全社戦略、特定領域別の戦略、保証業務を中心としており、企業の課題解決を推進して長期的価値創造を実現します。

Y.Furubayashi

2017年入社
CCaSS事業部
マネージャー

難関資格に挑戦して自分の可能性を広げたいとの思いで公認会計士を志す。誠実な人と一緒に仕事がしたいと願い、EY新日本に入社。5年間にわたって公認会計士としての基礎を磨き、その後、アドバイザリー業務にも携わりたいとモビリティ制度を利用してCCaSS事業部に異動する。休日はジムに行ったり英語の勉強をしたり。ゴルフにもいそしむ。

EY People

メンバー紹介

2014年入社
EYストラテジー・アンド・
コンサルティング
シニアコンサルタント
M.Morioka

MESSAGE
みんな ☆
がんばれ!!

CAREER

- 2014年
  入社。
  名古屋事務所に配属。精密工業、建設業、学校法人などの監査に従事。アニュアルレポート（英文財務諸表）の作成やリクルート活動も経験する。
- 2017年
  シニア昇格。
  自動車部品メーカー、小売業、学校法人などの現場主査としてチームマネジメントを担当。IPO準備にも携わる。
- 2019年
  フィリピン語学研修（1カ月）に参加。
- 2021年
  モビリティ制度を利用し、かねて希望していたSaTのTRS部門に出向。主にアミューズメント業界の再生案件に携わる。
- 2021年
  モビリティ制度を利用し、かねて希望していたストラテジー・アンド・トランザクションのTRS部門に出向。主にアミューズメント業界の再生案件に携わる。
- 2023年
  シニアコンサルタント昇格

新たな成長を目指し、自らの意思で出向へ

メンバーファームへの門戸が開かれている

私がモビリティ制度を利用したEY Japanのメンバーファームへの異動を考えるようになったのは、新しい環境で自分の可能性を広げたいと思ったからでした。名古屋事務所での7年間、幅広い業種のクライアントに対して監査業務を中心に英文財務諸表の作成、IPO準備などに携わるうちに、「数字を見る」だけにとどまらず、クライアントと一緒に「数字をつくる」業務にも取り組んでみたくなったのです。そこで希望したのが企業価値向上などの戦略的アドバイザリー業務を行うストラテジー・アンド・トランザクションでした。転職することなく、異なるフィールドでの挑戦に一歩を踏み出せるのは、メンバーのキャリア形成に意欲的なEY新日本ならではの魅力です。

多様な視点、新しい知見を身に付ける

企業・事業再生を手がけるTRS部門で、私はアミューズメント企業の案件を担当。資金繰り状況のモニタリング、グループ会社の統廃合、清算価値の算定、債権者向けの説明資料の作成などを行っています。クライアントと一緒に再建計画書を作成し、金融機関や債権者のもとへ説明に出向くのですから、まさに運命共同体の一員として取り組んでいる実感が得られます。債権者の数字に対するシビアな目線を知ることもできました。一緒に働く仲間は銀行出身者、証券会社出身者など、バックグラウンドは多彩。公認会計士はむしろ少数派です。再生案件では、監査法人のときは関わることのなかった弁護士の方々と仕事をすることも多いのですが、同じプロジェクトで働いている弁護士の先生方の案件の進め方、物事の考え方など、日々勉強になることばかりです。出向期間は2年間です。ここでの経験を新たな糧として、私ならではの価値が提供できる公認会計士を目指していきたいと思います。

EYストラテジー・アンド・コンサルティング

EYストラテジー・アンド・コンサルティングは二つのサービスラインが統合した法人です。EY新日本の戦略コンサルティングサービスの集約により、大手クライアントに向けて成長のための多様な支援業務を行っています。

M.Morioka

2014年入社
EYストラテジー・アンド・コンサルティング
シニアコンサルタント

人材紹介会社で転職アドバイザーとして働いた後、公認会計士を目指してキャリアチェンジ。EY新日本に転職する。名古屋事務所で監査業務を中心に経験を積んだ後、7年目にストラテジー・アンド・トランザクションに出向。学生時代からバックパッカーとして世界を旅してきた。今の目標はウクライナへの再訪。

EY People

メンバー紹介

2005年入社
EYロンドン事務所（出向）
シニアマネージャー
Y.Mitsui

MESSAGE
プロとして成長できる
フィールドを山がEYです!!

CAREER

- 2005年
  学生非常勤として入社。
- 2014年
  マネージャー昇格。
  海外出張や海外子会社とのコミュニケーションを通じて、海外駐在を志すようになる。
- 2017年
  シニアマネージャー昇格。
  主に建設業、海外の自動車部品メーカーの監査に従事。
- 2018年
  日系企業の監査に加え、他のサービスラインと連携してジャパンデスクとして新規開発に携わる。
- 2019年
  日本に帰国。
  自動車・産業機械部品メーカー、建設業などの監査を担当する。
- 2022年
  EYロンドン事務所に出向。
  日系企業の監査に加え、新規監査の受け入れやジャパンデスクとしてのクライアントサポートを担当。

成長する機会を与えてくれるEY

二度目の海外出向でさらなる成長を

EYメルボルン事務所の海外出向から帰国し3年後、メルボルンでの経験や帰国後での業務を通じて、もう一度海外出向で、自分の成長できる場所に身を置きたいと考えました。これは、自分が理想とするパートナーを目指す上でも必要なキャリアパスと考えたからです。その結果、EYロンドン事務所に出向することができました。このようにEY新日本にはチャレンジしたいと手を挙げるメンバーには必ずチャンスを与えてくれる風土があります。思い起こせばシニア時代、視野を広げたいと希望する私に、ナレッジがそこまでなかった業界の主査を任せてくれました。メンバーの「チャレンジしたい」という気持ちを尊重し、上司を含めた同僚がしっかりとサポートする、このカルチャーこそEY新日本の最大の魅力であり、私が籍を置き続けている一番の理由です。

期待値を上回るパフォーマンスで

EYロンドン事務所では主に日系企業の監査、新規顧客の開発、クライアントの親会社と子会社の橋渡しを行うリエゾン業務などに携わっています。心掛けているのは、常に相手の期待値を理解し、その期待を上回るアウトプットを提供することです。これは対クライアントのみならずチームメンバーに対しても同様で、多様な人種や価値観が混じり合う環境で同じマインドを共有するために、常に相手のことを知り、その期待を上回るパフォーマンスを自分に課しています。英国は会計監査先進国であるため、最新のナレッジが得られることも魅力です。こうした経験は帰国後、私に大きな価値をもたらしてくれると考えています。

Y.Mitsui

2005年入社
EYロンドン事務所（出向）
シニアマネージャー

2005年入社。主として製造業、建設業、ライフサイエンス、自動車部品メーカーなど、幅広く監査を担当。日本基準、国際会計基準および米国基準に基づく多国籍企業の監査も経験する。EYロンドン事務所では、自動車・産業機械部品メーカーや商社の監査に携わる。2歳の娘と自然豊かな公園で遊んだり、パブに足を運んだりと、ロンドン生活を満喫中。

EYロンドン事務所

EYは150以上の国と地域で監査・保証業務、税務、ストラテジー・アンド・トランザクションおよびコンサルティングのサービスを提供しており、全世界を「Americas（北・中・南米）」「Asia-Pacific（アジア・パシフィック）」「EMEIA（欧州、中東、インド、アフリカ）」の三つのエリアに区分して運営しています。欧州には約41の拠点があり、EYロンドン事務所はそのうちの一つの組織です。

CrossTalk

若手メンバー×パートナー座談会

楽しんでほしい、それぞれのキャリアの道

キャリアの多様な選択肢が用意されているEY新日本。自らチャレンジすることで、
目指す道を歩んでいくことができます。同じチームに所属するパートナーと二人の若手メンバーが、
EY新日本ならではのカルチャーや成長へのターニングポイントなどについて語りました。

温かみあふれる
職場と誠実な仲間たち

Sakaguchi　私がEY新日本を選んだのは、この企業なら自分らしく働けるのではと思ったことが一番の理由でした。説明会で先輩方が自分の言葉で話している姿を見たことが、そのきっかけです。こうした印象は入社後も変わらず、挑戦してみたい仕事を希望したときもかなえていただきました。

Kawagishi　できるだけ本人の希望を実現させようとする風土は、EY新日本の伝統だと思います。公認会計士の仕事は、どれだけ経験という引き出しを持っているかが重要ですので、その意味でもさまざまな経験が積める環境は素晴らしいと思います。

Kojima　私はリクルーターの方の人柄が決め手でした。入社したらどこに住むのがお勧めか、どの店のランチがおいしいかなど、生活全般まで含めたお話をしていただきました。とても親身に説明してくださり、こういう先輩と一緒に仕事がしたいと思いました。

Kawagishi　一期一会を大切にするのがEY新日本のリクルーターなんです。だから時には面談が人生相談の場になってしまうこともありますよ。

K.Sakaguchi
2022年入社
第1事業部
スタッフ

新卒で一般事業会社に入社後、専門性を身に付けて新しいキャリアに挑戦したいと考え、EY新日本に転じる。入社以来、一般事業会社の監査やIPO支援業務に携わる。大学時代オーケストラサークルに所属していたことから、今もクラシックのコンサートに定期的に通う。

Kojima　そんな温かみがEY新日本らしさですね。基本的に真面目で誠実ですが、堅すぎることはありません。

Kawagishi　実は私もそんなカルチャーに引かれEY新日本に入社しました。私は要領が良いタイプではないので、せっかく公認会計士になれたのだからじっくり仕事に取り組める環境が向いていると思っていました。以来20年以上がたちますが、その雰囲気は今も変わっていないと感じます。

Sakaguchi　チームの皆さんに私の誕生日のお祝いをしていただいたのには驚きました。

Kawagishi　忙しい時期だったのですが、みんなの息抜きも兼ねて提案したところ、Kojimaさんが「幹事をやります」と快く引き受けてくれました。子育て中の女性メンバーも「こういう機会があると出かけやすい」と喜んで参加してくれました。

Kojima　女性が多いのはこのチームの特徴ですね。私は入社以来このチームにいるのでこれが自然だと感じています。女性の活躍促進は社会の大きなテーマであるものの、特に意識することなく過ごしています。

Sakaguchi　女性が理事長を務めていることはとても象徴的で、女性活躍促進に対して有言実行の組織だと思いました。

Kawagishi　EYシンガポールでは男性が少数派で、女性の活躍は当たり前のことでした。その経験から私は会計事務所は女性が輝ける職場だと知っているので、女性の公認会計士のキャリアサポートをこれからのマイパーパスと考えています。女性が働きづらい職場は、男性にとっても居心地の良い職場ではないはずですしね。

それぞれの挑戦を通じた
成長体験

Sakaguchi　会計監査は感謝されることが少ない仕事というイメージでしたので、入社1年目にクライアントから「来年度もぜひあなたにお願いしたいです」と言われたときはうれしかったです。その思いにしっかり応えなければと感じ、自分も感謝の心で仕事に取り組んでいこうと決心しました。

Kawagishi　「証券市場の番人」として監査人は、時にはクライアントに耳の痛いことも言わなくてはなりません。それでもSakaguchiさんが感謝の言葉をいただけたのは、コミュニケーションのスキルが高いからだと思います。

Kojima　私が印象的だったのは2年目に、入社したばかりの新人に対する研修の講師を務めたことでした。教えることを通じて自分が勉強し直すきっかけになったと思います。

Kawagishi　確かに人に教えることは自分自身の成長につながるので、素晴らしいチャレンジになったことでしょう。

Kojima　現在は英語によるディスカッションのOJTも兼ねて、海外経験の豊富なパートナーやマネージャーに交じって、海外の子会社監査チームとのミーティングに参加させてもらっています。いずれは海外駐在にも挑戦したいですね。

Kawagishi　私は10年目にEYシンガポールに駐在し、それまで経験したことのない営業活動をしました。監査だけでなく税務、ストラテジー・アンド・トランザクションやコンサルティングなど、他のサービスライン、他の国のEY新日本のプロフェッショナルとのコラボレーションが日常茶飯事で、それぞれのプロの力を集めれば、創業期から成長期、清算まで会社の一生に関わるあらゆるサービスが提供可能であることを学びました。そのことは、EY新日本の一員として、また、一人の公認会計士として、社会に果たせる役割の大きさを知る上で、とても貴重な経験となりました。視野がずいぶん広がったのは間違いありません。また、人材こそサービス品質の要であると改めて認識できたことは、パートナーとしてチーム運営を考える際に大きく役立っています。

S.Kojima
2020年入社
第1事業部
シニア

入社以来、製造業を中心に監査業務、IPO業務に携わる。デジタル分野でも経験を積む。将来は海外駐在も希望。休日はサウナでリフレッシュ。長期休暇ではチームの先輩や後輩と旅行を楽しんでいる。最近はゴルフを始め、どうやったら上達できるか、試行錯誤中。

好奇心を大切に、
チャレンジしてほしい

Kojima　最近私が感じるのは、誠実さを特に大切にしたいということです。私は未熟なので失敗することもあるのですが、そのときもごまかさず、まずは心からの謝罪をするようにしています。

Kawagishi　誠実さは一人の人間としてとても大切な姿勢ですよね。同時に会計監査の専門家としてふさわしい知識を備えつつ、相手の立場に応じたわかりやすい言葉で伝えていくことも忘れてはなりません。専門的な難しい内容を、かみ砕いて説明することができてこそ、「プロフェッショナル」と信頼されることになります。

Kojima　これから入社される皆さんに期待したいことは、私たちに新しい刺激を与えてくれることですね。どんな目標でも結構ですので、将来のビジョンに対して積極的な方ならば、大歓迎です。

Sakaguchi　同感です。自分でやりたいことが明確な人が隣にいると、切磋琢磨（せっさたくま）できますね。EY新日本は多様性も尊重していますから、いろいろな価値観を持った方にもぜひ多くの方に入社してほしいと思います。

Kawagishi　さまざまな専門性や持ち味を備えた人材が一つのチームとして働くことで大きな価値を生み出していくのが、EY新日本という組織です。そうした場の広さ、懐の深さも、大きな魅力なのは間違いありません。

Sakaguchi　成長していく上で大切なこととはなんでしょうか。

Kawagishi　好奇心を失わないことです。私はEY新日本というのは「最高の挑戦する場」だと思っているんです。好奇心があればチャレンジの機会は自分次第でいくらでも手にすることができますから、ぜひワクワクしながらEY新日本でのキャリアを楽しんでいただきたいですね。

T.Kawagishi
2001年入社
第1事業部
パートナー

大手メーカーなどの監査業務、IFRS導入支援業務などを経てEYシンガポールに駐在。帰任後、複数のグローバル企業の監査チームを統括。パートナー昇格後はEY新日本のグローバル人材の育成、女性活躍推進に注力。同僚でもある妻と年2回の海外旅行（コロナ禍前）、国内旅行（コロナ禍後）も楽しむ。

CrossTalk

地区座談会

道は自ら開ける。そこに意志があれば。

北海道から沖縄まで日本全国に拠点を置くEY新日本は、地域のニーズに応える品質の高いサービスを提供しています。
エリアの違いにとらわれないキャリアの可能性、女性の活躍を支える環境などについて、
大阪事務所と名古屋事務所のマネージャーがご紹介します。

Osaka×Nagoya

Y.Amano

シニアマネージャー

志さえあればキャリアの可能性は無限。
選択肢は自分で広げられます。

主体的にキャリアをデザインできる

Amano　私は手に職をという思いで選んだのが、公認会計士の道でした。

Katayama　確かに、社会の一員として長く働きたいと考えたとき、公認会計士は男女の別なく活躍できる仕事なのは間違いありません。自分の専門性を発揮することで誰かの役に立てたとき、そしてその結果、感謝されたときは、大きな喜びを感じます。

Amano　クライアントとコミュニケーションをとって事業への理解を深め、課題を一緒に解決していくことのやりがいは大きいですね。

Katayama　Amanoさんはグローバル企業を担当されるなど、国際的な業務が多いそうですね。

Amano　海外に関連する仕事がしたいと希望して入社し、子どもたちを生んだ後、10年目には海外派遣プログラムを利用して米国のサンノゼ事務所に2年間出向しました。実はこのとき夫は仕事を休職し、家族みんなで米国で暮らしていました。

Katayama　夫の海外駐在に妻がついていくパターンはよくありますが、逆は珍しいですね。

Amano　夫も当時はEY新日本に勤務しており、私が産休･育休で2年間休職したから今度は自分の番ということで休職し、子どもと共に米国へついてきてくれたんです。EY新日本大阪事務所にとって前例のないことであったものの、周囲の理解・協力もあって快く送り出してもらえました。おかげで夫も"主夫"生活をエンジョイできたようです。

Katayama　それぞれの家庭の事情にあわせ、柔軟に制度を運用してくれる点はEY新日本の素晴らしいところですね。組織としての懐の深さを感じます。名古屋事務所では子育て中のメンバーが「フレキシブルワークプログラム」(※1)を積極的に利用しており、リモート勤務制度もコロナ禍以前から利用されていました。仕事と家庭を両立させるためのサポート体制はとても充実していると感じます。

Amano　リモート勤務制度のおかげで時間の有効活用が進みました。仕事の効率が上がっただけでなく、昼休みにヨガをしたり通勤時間帯にジョギングしたりと、プライベートの時間を楽しんでいます。

Katayama　「週に何日出社しなくてはならない」というルールがなく、自分で決められるのがいいですね。働き方を主体的にデザインできます。自分が必要だと感じたらリモートミーティングで済ませず、直接クライアントに足を運ぶことも珍しくありません。

※1 フレキシブルワークプログラム=時間外勤務･休日出勤の免除や、短時間勤務、所定勤務日数を低減できる制度

自分が輝く上で拠点の違いはない

Amano　大阪事務所は東京事務所の10分の1ほどの規模で、アットホームな雰囲気です。

Katayama　さらに小規模なのが名古屋事務所です。みんなフランクでパートナーとの距離が近いのは、地区事務所ならではの魅力ですね。たまたま隣の席にパートナーが座ったから「こんな仕事をしてみたい」と直接相談するということも珍しくありません。

Amano　業界や業務ごとのくくりがなかったり、垣根が低かったりするのも地区事務所ならでは。幅広い仕事に挑戦できます。

Katayama　名古屋事務所では最近IPO関連業務や海外リファーラル業務が増えています。監査業務や非監査業務、セミナーの講師など、希望すればどんどん仕事の幅を広げられます。

Amano　そうした意味でも、地区事務所だから仕事に限界があるのではといった心配は杞憂ですね。例えばEY新日本では社を挙げてDigital Auditへの取り組みを行っていて、私は西日本事業部のDigital Audit推進委員として最先端のデジタルツールの周知活動などに取り組んでいます。地区事務所に所属していてもEY新日本全体の活動においてコアな仕事ができており、東京と地方との差はほとんどありません。

Katayama　モビリティ制度が充実しているため、自ら望めば拠点間の異動もかなえやすいですね。

Amano　結婚を機に実家のある大阪に帰ってきたというメンバーが大阪事務所にいますし、逆に大阪事務所から東京や福岡へ異動していくメンバーもいます。カウンセラーによるカウンセリングを通じてキャリアを見つめ直す機会が用意されているのも、主体的に異動をする上での支えになっていると感じます。

M.Katayama

シニアマネージャー

自分の働き方は自分で決める。
主体性こそが成長を促してくれます。

先輩から後輩へ、道を開きたい

Amano　私の場合はサンノゼ事務所への出向が一つの転機となりましたが、Katayamaさんにとってのターニングポイントはなんでしたか。

Katayama　シニアからマネージャーに昇格したときでしたね。私にマネージャーが務まるか、一時は昇格をためらっていました。そのときパートナーが「そういう不安と向き合える人にこそ、チャレンジしてほしい」と言ってくれたんです。その言葉に背中を押され、思い切って一歩を踏み出すことができました。昇格してみると仕事に対するスタンスがまったく変わり、あらゆることに対して能動的に取り組むようになりました。視野も広がったと思います。

Amano　そんなふうに先輩方が支えてくれるところがEY新日本らしさですね。そこに男女の垣根はありません。

Katayama　先ほどAmanoさんがDigital Auditに触れられたように、本格的なDX時代において、私たちも自分自身をさらにアップデートさせていかなくてはなりません。デジタルツールは単純作業から私たちを解放し、経営課題の解決など本質的な業務に集中できる環境を実現してくれると思います。

Amano　「Japan GradLab」(※2)に代表されるように若いメンバーが中心になってDigital Auditに取り組んでいます。EY新日本の先進性は、これから入社される方にとっても魅力的なことでしょう。

Katayama　名古屋事務所では、女性として私が一番上のキャリアにあります。後輩の皆さんに多様なロールモデルを通じてキャリアの幅を見てもらうことが、これからの私のビジョンです。チャンスがあればぜひパートナーへの道を目指したいですね。

Amano　私はこれまで海外のビジネスについての知見を磨いてきたので、今後もさらにグローバル企業への貢献を続けていきます。そしてKatayamaさんと同じく、パートナーを目指したいと考えています。

Katayama　拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を開いていきましょう。

※2 次世代を担う人材を対象とする人材育成プログラム

Y.Amano
2007年入社
大阪事務所
シニアマネージャー

大阪府出身。大学卒業後、EY新日本に入社し、大阪国際部（現･大阪事務所2グループ）に配属。グローバル企業の海外子会社の監査などを担当。米国のサンノゼ事務所への出向も経験する。一男一女の母親。ヨガやジョギング、ゴルフなど体を動かすことが好き。2022年より、米国サンフランシスコ事務所へ出向中。

M.Katayama
2008年入社
名古屋事務所
シニアマネージャー

愛知県出身。大学卒業後、SEとして働いた後にEY新日本に入社し、名古屋事務所へ。高速道路会社、製造業、学校法人と幅広い業界の監査に従事し、最近は地方公共団体の包括外部監査などパブリック関係の仕事も担当。休日は息子と公園巡りを楽しむ。子どもと思い切り遊べる体力づくりが今の関心ごと。